

自分を好きになろう

松江市立湖南中学校 1年 TY

昔から周りのみんなはひらがなを簡単に覚えられていたのに、僕はなかなか覚えられませんでした。いつも宿題がとても苦しくて、お母さんが帰ってくるまでできないしお母さんも疲れて仕事から帰ったらまた僕の勉強も教えないといけなくて、僕はお母さんを困らせてしまっている自分のことがとても嫌いでした。

でも勉強が苦手な僕を特に支えてくれたのはひいおじいちゃんとお母さんです。ひいおじいちゃんはいつも僕に

「ゆっくりでいいんだよ。自分のペースでいいよ。」

と優しく言ってくれました。お母さんは、

「読み書きができなくても大丈夫!だって善美は自分の思いをちゃんと話して伝えることができているから。それに挨拶を元気よくするし、掃除も一生懸命に頑張るし。人の気持ちもわかる優しい子だよ。読み書きは苦手でも人として大切な事はちゃんと身に付けながら成長しているから、自信を持って!善美はお父さんとお母さんの大切な宝物だよ!」

といつも言ってくれました。そのきっかけで少しだけ自分が好きになりました。

そして小学2年生の時に発達教育相談支援センターのエスコの先生に出会ってから、僕が覚えやすい字の書き方を教えてもらったりタブレットなどで僕が好きな動物などの名前や特徴を調べて一緒に勉強すると覚えやすいよ、などとコツを教えてもらってからはほんの少しだけ勉強が好きになりました。

でもやっぱり読み書きは辛いし勉強したくてもなかなか覚えられなくて苦しいです。

僕は読み書き障害があるとお母さんやお医者さんから教えてもらいました。だけどこんなに困っている人は僕だけなのかな?とずっと思っていました。そんな時お母さんから僕みたいに読み書き障害があるけれど落語家で活躍している人の講演会があると聞き、同じ読み書き障害がある弟とお母さんの3人で講演会に行きました。柳家花緑さんという方でした。花緑さんも小さい頃から読み書きが苦手で叱られてばかりだったことや話すことが大好きで落語家で楽しく話をするけれど疲れやすいと言うことなど話を聞いて僕は安心しました。何故かと言うと僕だけが読み書き障害じゃないって知ったし疲れやすいのも同じでやっぱり僕は怠けているわけじゃないってわかったからです。

花緑さんも言っていたように読み書きが苦手でも好きなことを見つけて気楽に楽しみながらやればいいのです。だから僕は将来、農家になるために今できる力で頑張って勉強し自立の時間で畑の作業を楽しみながらやっていたいと思いました。

世界にはきっと僕みたいに読み書き障害で苦しんでいる人がたくさんいると思います。苦手なことがあって辛い思いをしている人もたくさんいると思います。

だけどこれだけは忘れないでください。僕も最初は自分が嫌いだったけれど大丈夫!必ず自分を支えてくれる人はたくさん周りにいるし、あせらずゆっくりでも自分のペースで好きなことをやればいい!そして自分も大好きになれます。僕は今でも勉強が苦手だけど今の自分は大好きです!